「授業備品」NO 323　8.11.7 「マナフリシート」　横須賀市立長沢中学校　藤井　亮平先生記

学びを振り返り、学び方を学ぶ～生徒の自走を支える「マナフリシート」の活用～

1　「振り返りをさせる」から「自ら振り返る」へ

「生徒」が単元全体を見通し、授業や単元での学びを振り返りながら、自分に合った学び方を習得していくことこそ、主体的に学ぶ姿につながると考える。以前、ある研究授業を参観した際、授業の最後の５分間を振り返りの時間として設定している光景を目にした。そこでは、生徒から「なんでこんなことをやるの？」「また書かなきゃ」といった声が聞こえ、「分かった」「分からなかった」の一言だけで振り返りを終える姿も見られた。

振り返りの時間を確保すること自体は大切である。しかし、その目的や意義が生徒に理解されていなければ、振り返りは単に「させられる活動」になってしまう。これでは、自分の学びを自分で捉え直し、次の学びに生かそうとする主体的な姿にはつながりにくい。

そもそも、なぜ生徒が自分の学びを振り返ることが重視されてきたのだろうか。

平成元年（1989 年）の学習指導要領改訂では、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力などを重視する方向性が明確になった。その後も、自ら課題を見いだし、学びを深めていくことが求められてきた。平成 29 年（2017 年）告示の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、自分の学習を振り返り、次の学びにつなげていくことが重視されている。

つまり、振り返りの目的は、授業の最後に感想や理解度を書かせることではない。自分は何を学び、どのように考え、何ができるようになったのか、そして次に何をすべきなのかを自分自身で捉え、学び方を改善していくことにある。

大切なのは、振り返りの時間を設けることではなく、振り返りによって生徒の学びが変わることである。

2　学び・振り返り・調整をつなぐ「マナフリシート」

そこで本校では、振り返りを次の学びにつなげ、生徒が自分自身で学び方を身に付けていくことを目指し、「マナフリシート」を導入している。

マナフリシートには、「単元目標」「単元計画」「単元の評価項目」「長沢スタンダードレベル」に加え、「単元で学びたいこと・達成したいこと」「授業内容の振り返り」「単元の振り返り」を記入する欄を設けている。（図１）

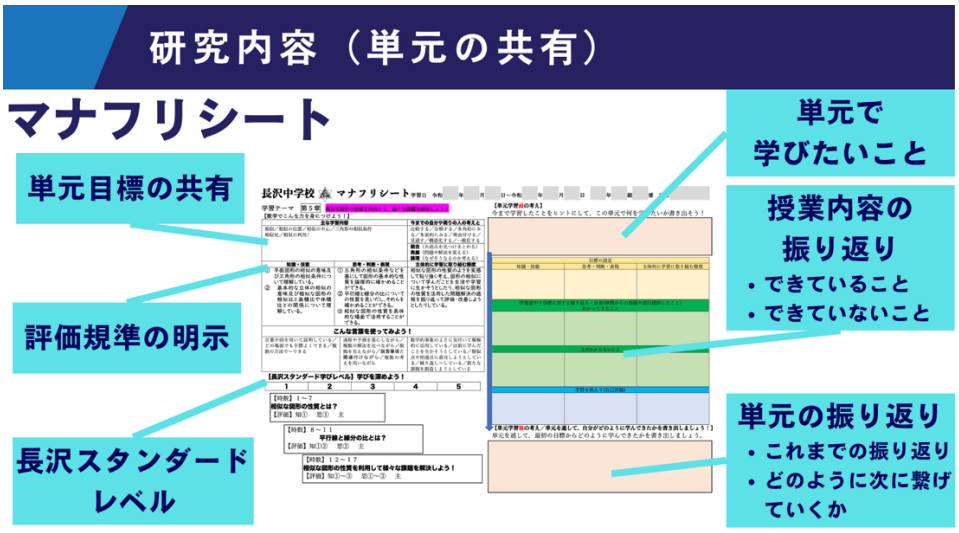


図１：マナフリシート

このシートの特徴は、単元の目標や計画、評価の視点を生徒と共有するとともに、振り返りを行うタイミングを一律に指定するのではなく、生徒自身が必要に応じて記入できるようにしている点にある。

生徒は、単元の見通しをもって授業に臨み、学習の途中で自分の理解や学び方を確かめる。そして、必要に応じて考え方や学習方法を見直し、次の授業や家庭学習に生かしていく。単元の終了時には、目標に対する到達状況や学びの過程を振り返り、自分の成長と今後の課題を捉える。

このように、マナフリシートは、単に学習の記録を残すためのものではない。単元全体を見通し、学びの過程を可視化し、自分の学びを調整するためのものである。

3　教員と生徒が単元を共有する

生徒が自分自身で学習を進められるようになるためには、教員が単元の目標や計画を生徒に分かりやすく伝え、どこに向かって学ぶのかを共有することが重要である。（図２）



図２：教員と生徒とで単元を共有

単元の目標や評価の視点が分かれば、生徒は「何を学ぶのか」「何ができるようになればよいのか」を意識して授業に臨むことができる。また、単元計画を見通すことで、本時の学習が単元全体のどこに位置付いているのかを理解し、次の学習に向けて準備することもできる。

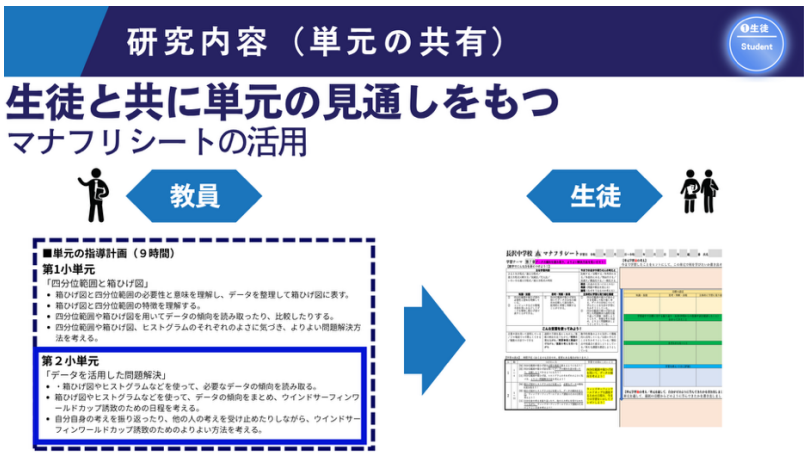


図３：単元計画とマナフリシート

さらに、マナフリシートに記録された生徒の学びの足跡は、教員にとっても重要な情報となる。生徒がどのような目標をもち、どこでつまずき、どのように考えを修正しているのかを把握することで、個々の学習状況

に応じた支援や授業改善につなげることができる。

つまり、マナフリシートは、生徒の学びを支えると同時に、教員の指導と評価をつなぐ役割も果たしている。生徒が自ら学びを調整する姿を見取り、その状況に応じて指導を改善する。この積み重ねが、指導と評価の一体化につながると考える。

4　学びの足跡を可視化し、生徒自走型の学びへ

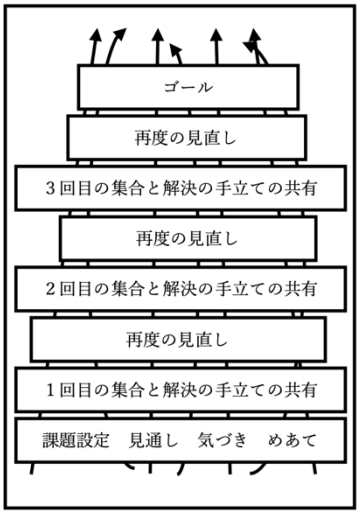
西留安雄先生の授業備品 NO.237 をもとに、右のような図を作成してみた。

長沢スタンダードの授業では、生徒が課題解決に向けて考え、仲間と考えを共有し、解決の手立てを見直す機会を大切にしている。一度考えて終わるのではなく、他者の考えに触れ、自分の考えを再検討し、再び解決に向かう。こうした試行錯誤が、授業の中で何度も繰り返される。

この過程で、生徒はさまざまな解決方法を試し、自分にとってよりよい考え方や学び方を見いだしていく。そして、その積み重ねは単元全体を通してさらに広がっていく。

しかし、学びの過程は、最終的な答えや成果物だけでは十分に捉えられない。どのような考え方を試したのか、仲間の意見を受けて何を見直したのか、どのような工夫によって解決に近づいたのか。そこにこそ、生徒が学び方を習得していく過程が表れる。だからこそ、学びの足跡を可視化することが重要になる。マナフリシートを通して学びの過程を記録し、教員と生徒が共有することで、生徒は自分の成長や課題を自覚し、教員は次の指導や支援に生かすことができる。

複数回集合型の考察(長沢中版)



最終的に目指すのは、教員に促されて振り返る生徒ではなく、自分にとって振り返りが必要だと判断し、自ら学びを見直して次の行動につなげる生徒の姿である。学び、振り返り、調整し、再び学ぶ。このサイクルを自分自身で回せるようになることが、生徒自走型の学びにつながる。

マナフリシートは、そのための手段である。シートを記入させることが目的なのではない。シートを活用しながら、生徒が自分の学びを捉え、自分に合った学び方を身に付けていくことにこそ、その価値がある。

【生徒が作成したマナフリシート】

